

自己評価報告書

平成23年 4月 7日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530470

研究課題名（和文）テレビ映像資料のアーカイブ構築とネットワーク化についての発展的研究

研究課題名（英文）Archive Construction of TV Visual Data: a Progressive research on Network formation.

研究代表者

石田 佐恵子（ISHITA SAEKO）

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70212884

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学（含む文化人類学・社会福祉）

キーワード：映像社会学、テレビ文化研究、アーカイブ構築

1. 研究計画の概要

当研究に関連する先行研究では、映像データ、特にテレビ映像分析の手法にかかわる研究を展開し、分析対象となるテレビ映像資料を体系的に収集することを試みた。それらは、映像分析の手法について比較文化的に探求するという目的のためには必要十分な数量であったが、個人で収集可能な映像素材数には限界があり、ある程度分類上の体系性こそ確保されたものの、膨大な映像資料を徹底的かつ網羅的に収集するには至らなかった。

継続する当研究では、より体系的で網羅的な映像アーカイブ構築を目標として、それに必要な諸条件の検討、基礎的研究を継続的に行う。まず、期間と分野を限定して、映像資料の網羅的データ収集を試みる。収集された映像データは、随時分析資料としても活用しつつ、より効率的で研究・教育目的に特化した映像アーカイブのあり方を模索する。最終的には、公的映像アーカイブス施設の設置を目標とした研究者・研究機関ネットワークを拡大し、望ましい映像アーカイブスのデザインの提言を目指す。

2. 研究の進捗状況

以上のような研究目的に沿って、初年度（平成20年度）は、より体系的で網羅的な映像アーカイブ構築を目標として、次のような作業を実施した。①基礎的文献資料の収集 ②各地域・各国の調査 ③アーカイブ構築に関する諸問

題の検討 ④継続的なデータ収集と分類作業。

継続2年目（平成21年度）は、初年度の活動で得られた資料を対象に、そのデザインについてさらに検討を加えた。地上波テレビ放送のデジタル化に向けて、従来設置されてきた録画機器、映像保存機器、資料分析ソフトなどの再検討を行った。導入すべき設備機器の選定、デジタル放送時代の映像資料収集についての基本的フォーマットを模索した。

継続3年目（平成22年度）は、間近に迫った地上波テレビ放送の完全デジタル化に向けて、録画機器、映像保存機器、資料分析ソフトなどを導入し、デジタル放送に対応した基本的機器の活用を試験的に始め、その機器を用いた資料収集と調査を実施した。さらに、平成21年度から継続して、関連分野研究者を招いて数次の研究会を実施し、研究会の詳細をHPにて発信するとともに、活動報告書の刊行を行った。現在は、それらの成果を論文の形にまとめ、編著を編纂中である。

論文発表としては、2つの主要所属学会に成果としての論文が掲載され、学会の新しい潮流として広く認知されつつある。また、5冊の図書に論文が掲載され、海外の学会にも招聘されるなど、より広がりを持つ研究展開を目指している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

継続研究であったために、必要な設備が既に整っている状況で研究を開始できたため、計画以上に進展した部分もある。その一方、地上波デジタル放送に対応した機器の開発（メーカーによる）は遅れており、その影響を受けて、デジタル化時代の映像収集については、計画よりも遅れている部分もある。

4. 今後の研究の推進方策

①データ収集デザインの確定

地上波テレビ放送の完全デジタル化に向けて、従来設置されてきた録画機器、映像保存機器、資料分析ソフトなどを導入・選定を行い、長期的展望に立った研究用設備の導入、映像資料収集についての基本的フォーマットを確定する。

②映像アーカイブのネットワーク推進

これまでの作業を総合的に完成させたのちに、著作権問題を十分に考慮した上で専門研究者・教育利用・映像作者との共有の各レベルについて、アーカイブ公開の範囲と可能性を吟味し、最終的なアーカイブスの完成を目指す。

最終的には、公的映像アーカイブス施設の設置を目標とした国内外の研究者・研究機関ネットワークを拡大し、望ましい映像アーカイブスのデザインの提言を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ①石田佐恵子「個人映像コレクションの公的アーカイブ化の可能性」『マス・コミュニケーション研究』日本マス・コミュニケーション学会、第75号(60(1)), 2009年 査読有
- ②石田佐恵子「ムービング・イメージと社会 映像社会学の新しい研究課題をめぐって」『社会学評論』日本社会学会、第237号(60(1)), 2009年 査読有
- ③石田佐恵子「映像アーカイブスを用いたテレビ文化研究の可能性」『テレビCM研究』vol.2 No.2、京都精華大学表現研究機構、27-35頁、2009年 査読なし
- ④石田佐恵子・岩谷洋史「映像資料の収集と保存をめぐる問題 -デジタル化時代の映像社会学に向けての試論」、『都市文化研究』12、都市文化研究センター、84-94頁、2009年 査読有
- ⑤石田佐恵子「データベースのデザインをめぐって」『テレビCM研究』vol.1、京都精華大学表現研究機構、122-143頁、2008年 査読なし

[学会発表] (計5件)

- ①石田佐恵子(討論者)「WS『有名性と文化人：現代メディアにおける人稱性の消え難さ』」於日本マス・コミュニケーション学会秋期大会(東京国際大学)、2010年10月
- ②石田佐恵子「第4セッション『日韓関係の生活政治』 韓流ブームからジャンルとしての韓流へ」於韓国社会史学会(韓国、ソウル大学)、2010年10月
- ③石田佐恵子「初期テレビCMデータベースを読み解く」於ソウル大学日本研究所定例セミナー(韓国、ソウル)、2010年10月
- ④石田佐恵子「生活革命と〈専業主婦〉オーディエンスの構築」京都精華大学 テレビCM研究会、京都国際マンガミュージアム、2009年6月13日
- ⑤石田佐恵子「映像アーカイブスを用いたテレビ文化研究の可能性」、シンポジウム「テレビ文化は残せるか 著作権・アーカイブス・コマーシャル」、キャンパスプラザ京都、2009年1月11日

[図書] (計8件)

- ①石田佐恵子(編集)『持続可能な文化アーカイブ研究会 活動報告書』大阪市立大学、2011年 全100頁
- ②石田佐恵子(分担執筆) 吉見俊哉・土屋礼子編『大衆文化とメディア』ミネルヴァ書房、2010年 (第9章 221-249頁)
- ③石田佐恵子(分担執筆) 南後由和・加島卓編『文化人とは何か?』東京書籍、2010年(第6章 105-128頁)
- ④石田佐恵子(分担執筆) 高野光平・難波功士編『テレビ・コマーシャルの考古学』世界思想社、2010年 (第6章 132-157頁、コラム 108-109頁)
- ⑤石田佐恵子(編集)『記憶の社会学とミュージアム』大阪市立大学、2010年 全119頁

[その他] ホームページ

- ①持続可能な文化アーカイブ研究会
<http://ucrc.lit.osaka-cu.ac.jp/movief/samc/>